

自分で描く



未来予想

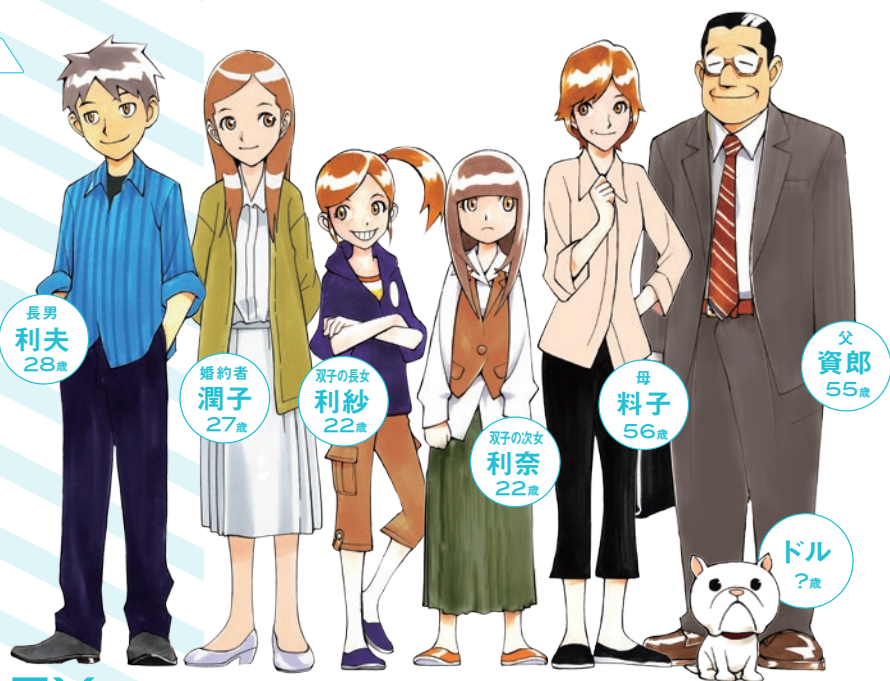
はじめてのライフプラン



ライフプランはすべての方に必要な 人生の設計図です

ライフ=人生、プラン=計画と考えると、ライフプランは“人生の設計図”のようなものになります。「独身だから、必要ない」「子どもを育て上げたから、今さら…」などと思う方がいるかもしれませんが、どのような年代の方にも、そして、どのようなライフスタイルの方にも必要なプランといえるのです。この冊子では、ライフプランの考え方の基本をご紹介します。

登場人物



INDEX

導入 ライフプランはなぜ必要? P02

第1話 結婚が決まったら、
ライフプランを立ててみよう P03

第2話 人生に必要な3大資金 P05

第3話 0歳から始めたい
教育資金プラン P07

第4話 夢のマイホーム購入計画 P09

第5話 ライフプランを基に考える
老後資金プラン P11

特別付録

自分の未来予想図を描いてみよう!

ライフプランはなぜ必要？



ライフプランを立てると、この先の人生のイベントやそれに必要なお金を把握しやすくなります。貯蓄の目標も決めやすくなるため、お金の使い方を見直したり、無駄遣いが抑えやすくなるので挑戦してみましょう。

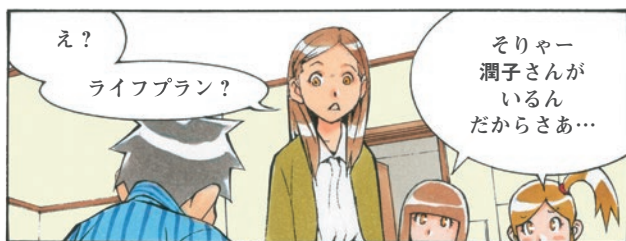


人生を楽しく過ごすには、この先の人生に必要なお金をつかんでおくことも大切ね。ライフプランを立てると、単なる無駄遣いなのか、必要な支出なのかを考えられるようになりそうだわ。



結婚が決まったら、
ライフプランを立ててみよう

ライフプランは独身の人にも役立ちますが、結婚が決まったときに作成するのが吉。出産、家の購入、子どもの教育…この先の人生に訪れる予定のライフイベントにはそれぞれお金が必要になるのです。



結婚というと、華やかな結婚式や新婚旅行に意識がいきがちだけど、
その後の新生活を考えることも重要だよ！



結婚式の費用のほか、新生活の準備にもお金はかかります

結婚費用のデータを見ると、婚約から挙式・披露宴、そして新婚旅行の費用までの合計額が371.3万円になっています。400万円近い金額を見ると、「そんなにかかるの?」と心配になる方もいるでしょう。この中から、180.4万円のご祝儀を差し引いた金額が自己負担額になります。さらに約7.7割の人は親族からの援助を受けていますので、人生の門出にかかるお金(自己負担額)は、意外に少ないのが現実のようです。

一方、『結婚トレンド調査2022』によると、結婚資金として貯金をしていたカップルの平均貯蓄額は296.9万円で、実際にかかった費用以上に貯蓄をしていたようです。結婚時点で貯蓄が少ないと、挙式や披露宴は何とかなっても、新生活が苦しくなってしまう可能性もあります。きちんと貯蓄を残して新生活に入ることができると、家庭生活の将来にも不安は少ないでしょう。

▶ 結納・婚約～新婚旅行までに かかった費用の総額

(単位:万円)

		全国(推計値)
結納・婚約～新婚旅行までに かかった費用の総額(推計値)		371.3
※ 項目別 平均額	結納式の費用	16.6
	両家の顔合わせの費用	6.6
	婚約指輪	35.8
	結婚指輪(2人分)	26.1
	挙式・披露宴・ 披露パーティ総額	303.8
	新婚旅行	29.6
	新婚旅行土産	4.3

出典:ゼクシィ 結婚トレンド調査2022調べ
※各項目の金額は、費用が発生した人の平均額。
各項目の合計は「結納・婚約～新婚旅行までにかかった費用の総額」とは一致しない。

▶ 新生活準備のためにかかった費用の総額

(単位:万円)

		平均値
項目別 平均額	インテリア・家具の 購入総額	24.4
	家電製品の購入総額	28.8
	賃貸費用/敷金・礼金※	16.5
	引越し費用※	9.6

出典:ゼクシィ新生活実態調査2023(リクルートプライダール総研調べ)
※賃貸費用についてはゼクシィ新生活実態調査2020(リクルートプライダール総研調べ)、引越し費用についてはゼクシィ新生活準備調査2018(リクルートプライダール総研調べ)参照。

夫婦のお財布は別々? 一緒?

一般的に新婚時代は共働き家庭が多いので、お互いに決めた金額を出し合ってやりくりする家庭が多くなります。お財布は別々だと気楽ですが、家計費以外のお金はおこづかいや使途不明金になりやすい傾向が。子どもが生まれて教育費が増えてきたり、予定外のお金が必要になったりすると、行き詰まる可能性もあります。



結婚資金はご祝儀でまかなえることも。新生活のお金の準備も大切!

人生に必要な3大資金



人生にはいろいろなライフイベントがありますが、教育、住宅、老後の3つの資金は、ライフプランの3大資金と呼ばれています。どの資金から準備するべきなのでしょうか？



子どもを持てば教育資金などがかかるし、マイホームもできれば欲しいと思う。その上で、老後資金をきちんと貯めるには、やっぱりライフプランが欠かせないね。



「教育資金」「住宅資金」「老後資金」は人生に必要な3大資金

子どもを持つ予定がない家庭では、教育資金の準備が不要ですが、将来の介護費用などを考えると、老後資金は多めに準備しておきたいところ。マイホームを購入しなければ、高額な住宅資金は要りませんが、老後の家賃分を見据えての老後資金準備が重要です。

教育資金

子どもが学齢期を迎えて社会人になるまでに、必要となる教育費を準備するのが教育資金プランです。大学や専門学校などに通う子どもの割合が約8割の現在では、大学まで通わせることを前提としたプラン作りが望まれます。子どもが2人以上いれば、人数分のプランが必要です。

▶ もっと詳しい情報はP7-8へ!

住宅資金

マイホームの購入を希望するなら、自己資金の準備計画や住宅ローンの借入れ計画が必要。ライフプランや自己資金の準備具合、金利の動向などを踏まえ、購入時期を検討しましょう。購入した後も、住宅ローンの繰上返済を行い、完済時期の前倒しや、返済額の圧縮をすることが可能です。

▶ もっと詳しい情報はP9-10へ!

老後資金

公的年金ではまかないきれない老後の生活費を準備するのが老後資金プランです。毎年、誕生日に届く「ねんきん定期便」などで、将来もらえる年金額をイメージしながら、不足する分の準備方法を検討しましょう。早いうちからしっかりと計画して、準備したい資金といえます。

▶ もっと詳しい情報はP11-12へ!

兄弟姉妹がいる 家庭の教育資金プランは

兄弟姉妹がいる家庭が教育資金プランを考える際、気になるのは兄弟姉妹の年齢差です。年齢が近いと、一度に多くの教育資金がかかる場合もありますが、年齢が近いとその分早めに教育資金の負担が終わって、老後資金を貯める時間を多く取れるメリットがあります。



ウチは
6歳差...

親に介護が必要になった場合 介護にかかる費用は

親に介護が必要になった場合、自宅で見ると、高齢者施設へ住み替えるのかなどで、かかる費用は異なります。元気なときに親が持つ貯蓄額などを確認するのは難しいものですが、万が一介護が発生した場合に備えて、親が持つ貯蓄額を確認しておけると安心です。

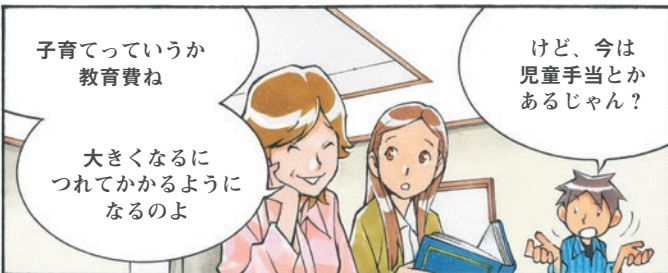


教育資金と住宅資金は同時進行で貯める。老後資金は早いうちから計画的に。

0歳から始めたい教育資金プラン



子どもが生まれたら、将来かかる教育費を貯めるのは欠かせません。
まずはどのくらい教育費がかかるのかを知り、いつから貯め始めるとよいのかを考えましょう。



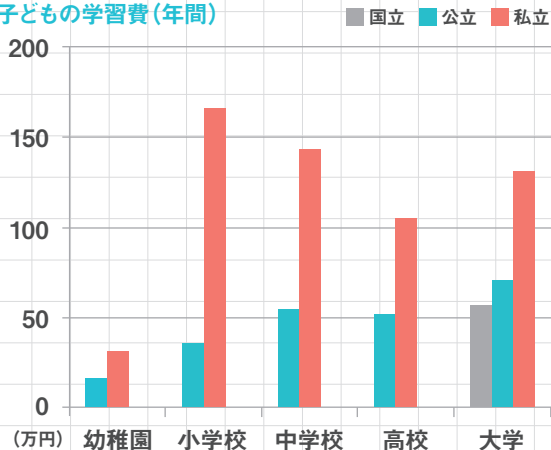
子どもにはたくさんのお金がかかるけれど、
お金のかかる時期がハッキリしている資金だから、
早めに貯め始めるのが何よりのポイントになるわね。



教育資金のピークは大学時代

現在は、約8割の子どもが大学や専門学校に進学しています。大学進学までを見据えて、資金を貯めてあげることが必要です。そして教育資金は、子どもが小さいときには負担が楽で、成長するほど高額化する特徴を持っています。言い換えれば、子どもが小さいときに貯めどき。定期預金や学資保険などを利用して、コツコツと準備していくことが重要になります。兄弟姉妹がいる場合は、それぞれの子どもに同等の準備をしておきましょう。

子どもの学習費(年間)



私立と公立じゃかかる費用が全然違うんだね!



出典:文部科学省「令和3年度子供の学習費調査」(独)日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」

中学から私立校に通わせる場合は10年間降りられない船に乗る覚悟で

教育資金プランを立てるとき、中学受験を考える方もいるのでは。中学から私立校に通うと、年間143万円程度の費用がかかります。3年間で約430万円の負担。これだけの教育費の負担をしながら、高校や大学の教育費を貯められるか、考えておく必要があります。



悩むな～

2人に1人以上が利用する奨学金は、子どもが返済するときのことも目を向けて

奨学金の利用者は昼間部大学生の2人に1人※といわれています。借りるときは目の前の支払いに追われて安易に借りがちですが、社会に出た子どもが10年以上の長きにわたり返済を強いられます。返済時にも目を向けて借りましょう。

返すのは私達だもんね!



※日本学生支援機構



教育資金は子どもが小さいうちから貯めておきましょう!

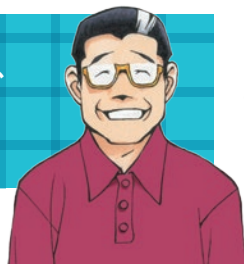
夢のマイホーム購入計画



人生最大の買い物ともいわれるマイホーム。多くの方は住宅ローンを利用してマイホームを購入します。住宅ローンの仕組みを知り、自身に無理のない返済計画を立てましょう。



ボクがマイホームを購入した当時は金利が高くて返済が大変だったけれど、給料が上がっていったこともあり、計画通り返済できたなあ。いずれにせよ、身の丈に合ったローンを組むことが重要だろうね。



マイホーム購入・賃貸住まい

マイホームを購入するか、賃貸住まいを継続するかは、老後にまで影響する大きな問題になります。マイホームを購入すると長期のローンを背負う反面、払い終われば住居費(住宅ローンや家賃)のない家に住むことができます。賃貸住まいを選択した場合は、引っ越しも気軽にできますが、老後にも家賃負担が残るため、持ち家の人より多めに老後資金を貯めなければなりません。

持ち家は
ローンがリスクで、
賃貸は老後資金が
リスクに
なるんだな



住宅ローンはいくらまでなら借りても大丈夫？

昨今の住宅ローンには、物件価格と同額(100%)を融資してくれるものもあります。100%の融資が受けられれば、自己資金がなくてもマイホームが持てますが、頭金の準備ができない人が住宅ローンに頼りすぎるのは危険です。頭金は最低でも10~20%くらいは準備したいところです。また年間の返済額は、年収の30%程度に抑えておくと、返済に行き詰まるリスクを下げられます。

借りられても
返せなければ
家を手放す
可能性も
あるんだって



親からの住宅資金援助

マイホームを購入する際、親や祖父母から住宅資金の援助が非課税で受けられます。非課税でもらえる金額は、省エネ性能などに優れた住宅と一般住宅では異なり、年によっても金額が変わります。住宅資金を援助してもらえそうなら、購入する年の非課税枠を調べてみましょう。

◎住宅資金贈与の非課税枠

住宅の種類・贈与年分	2023年12月まで
省エネ等住宅	1,000万円
上記以外の住宅	500万円

※2023年8月時点

◎住宅購入借入れ金額の計算式

物件価格 - 準備できる頭金+親などからの援助 = 住宅価格の借入れ金額

※借りられる額が返済できる額とは限りません。収入・ライフプランとのバランスを考えたローンを組みましょう。

非課税枠は
定期的に
変更されているので、
マイホーム購入時に
調べよう！

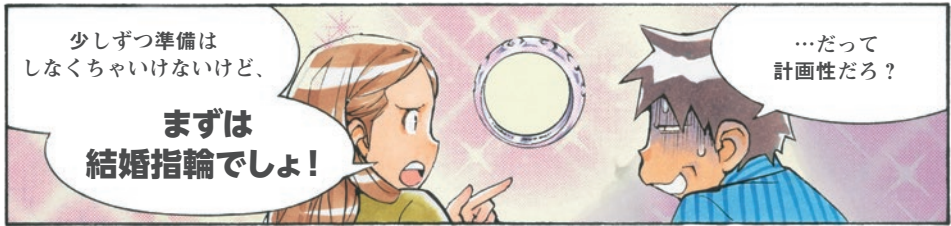


住宅を購入する際には、ライフプランと合わせて考え慎重に検討を！

ライフプランを基に考える 老後資金プラン



誰にでも必要となるのが老後資金。たくさん貯めるのが理想ではあるものの、現役時代の生活を犠牲にしてまで貯めるのも考えもの。自分の貯蓄力を把握し、適切な目標額を設定しましょう。



老後なんて、はるか先の話…。
だけど、日々の暮らしに追われていると、
いつの間にか目の前に迫ってくるものかもしれないよ。



ねんきん定期便で、自分がもらえる年金額をイメージしよう

毎年誕生日に届く、ねんきん定期便。今までの加入歴に応じて、支給される予定の年金額が書かれています。とはいえ40代くらいまでは、記載された金額が少ないため、イメージしづらいかもしれません。50代以降になると、自分が年金でもらえる額が大体分かるようになりますが、そのときにあわてないように準備したいですね。

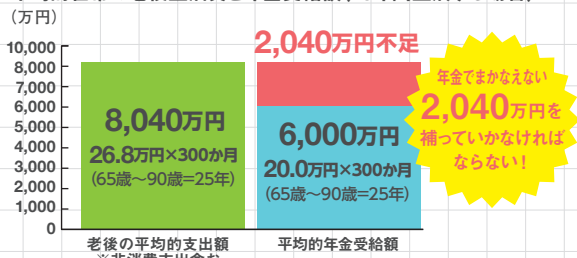


出典：日本年金機構「ねんきん定期便」本体と解説リーフレット

平均的世帯の老後生活費と年金受給額

老後資金の目標額について、高額に設定する人もいます。しかし、自分の貯蓄力を超えるほどの目標額を定めても意味がありません。自分が年間に貯められる金額を計算し、その金額を基に目標額を見積もりましょう。達成できる金額に設定することこそが大事なのです。

平均的世帯の老後生活費と年金受給額(25年間生活する場合)



出典：厚生労働省「令和3年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」総務省「家計調査年報(家計収支編)2022年(令和4年)」

厚生年金の受給額は夫婦で平均約20.0万円

公的年金の受給額にはいろいろな金額が挙げられますが、厚生労働省が発表している夫婦2人分の老齢基礎年金を含む平均的なひと月の受給額は約20.0万円(2021年度末の金額)。

これは現在公的年金を受給している世帯の平均的な年金額です。



出典：厚生労働省「令和3年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」

高齢者世帯の平均支出額はひと月約26.8万円程度

2人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の無職世帯の家計収支をみると、ひと月の支出は約26.8万円※になっています。年金額がこの金額に満たない場合は、その分が月の赤字に。そのほか、リフォームなどの特別支出も赤字額を増やします。



出典：総務省「家計調査年報(家計収支編)2022年(令和4年)」
※非消費支出を含む

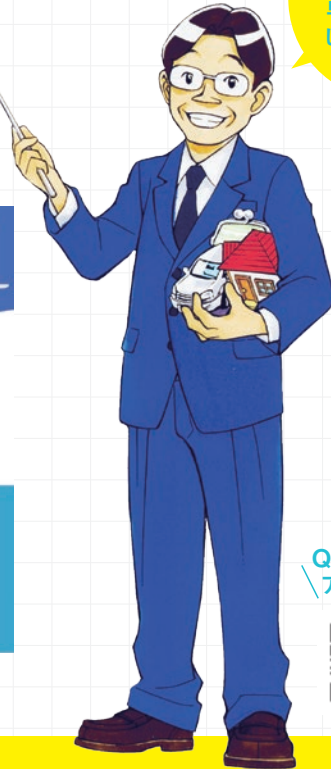


早めに老後の生活をイメージして、夫婦で共有していくことが大切!

WEBで入力してシミュレーションしてみよう!

このページでメモしたことを入力するだけで
あなたのライフプランが
ひと目でわかるグラフが完成!
収入・支出の変動もチェックできます。
家計のプロからのアドバイスもあるので
理想的な未来予想図づくりに役立ちます。

簡単に
チェックできるので
早速チャレンジ
してみましょ!



QRコードで
アクセス!



さっそくアクセスしてみよう

QRコードもしくは、全国銀行協会のホームページからアクセスできます。

<https://www.zenginkyo.or.jp/>

全銀協

検索

ライフプランを考えずに暮らしていくのは、航海図を持たずに出航するのと似ています。行き当たりばったりの航海は、運が悪いと難破の憂き目に遭う可能性も。運に任せず、正しい航路を無理なく進むことは、人生においても大切です。人生の設計図となるライフプランを描いて、安定した人生を歩みましょう。

設計図に沿って進めばライフイベントがより楽しく!

自分の未来予想図を描いてみよう！

これから自分にどんなライフイベントがあるのか、そしてどのくらいお金がかかるのかをこの冊子では学んできました。では、実際に自分に置きかえてみると、どのようになるのでしょうか。全銀協HP中の「自分で描く未来予想図」で以下の項目を入力すると、ひと目で分かるライフプランが表示されます。しっかりと未来のビジョンを描けるように、ぜひやってみましょう！

● 世帯構成と収入について

？ 今の自分の年齢、年収、貯蓄は？

自分 歳 年収 万円 貯蓄 万円

？ 配偶者の年齢、年収は？

配偶者 ^{※1}歳 年収 ^{※2}万円

※1:現在配偶者がおらず、今後結婚したい場合は、3年後に同じ年齢の人と結婚すると仮定します。※2:現在配偶者がいない場合は、希望金額を記入してください。

？ 子どもの年齢は？

子ども 歳 歳 歳

これから何人欲しい？ 人

※結婚している場合は今後2年ごとに、結婚していない場合は結婚後2年ごとに、希望人数まで増えると仮定します。

？ 子どもの学校はどうする？

すべて公立 小学校から私立 中学校から私立 高校から私立 大学から私立

● ライフスタイルについて

？ マイホームは購入する？

すでに保有している 年後に購入する 賃貸住宅のままで、マイホームは購入しない

？ あなたの性格は？

- 新しいことに挑戦するのが好きで、出費がかさむことも多い
- 趣味などにお金をかけることもあるが、普段は節約するメリハリ型
- 休日は出かけるよりも家で過ごすことが多く、それほど出費は多くない

入力項目は
これだけ！今すぐ
WEBへ
GO!

お金のことって ムズかしい!

それでも
ないかもよ?



全銀協の入門シリーズ



監修：ファイナンシャルプランナー 畠中雅子

もっと詳しく知りたい方はコチラ。

全銀協

検索